

実施日	視察先	視 察 項 目	備考
4月24日	三重県 伊勢市	・伊勢フットボールヴィレッジについて	
4月25日	三重県 松阪市	・松阪市クリーンセンター及び松阪新電力株式会社について	

視察先	項 目	調査内容
伊勢市	伊勢フットボールヴィレッジについて	<p>伊勢フットボールヴィレッジは、平成6年に伊勢市でジャパンエキスポが開催され、その駐車場の跡地が平成8年に朝熊山麓公園芝生球技広場として整備されたことから始まった。その後、朝熊山麓公園を健康増進及び生涯スポーツの拠点とし、スポーツ誘客による地域経済の活性化、市民の競技レベル向上及び市民の健康増進等を目的とした「伊勢フットボールヴィレッジ構想」のもと、平成16年に天然芝のEピッチの供用が開始された。</p> <p>平成19年にC・Dピッチを人工芝に張りかえ、平成25年に人工芝のA・Bピッチ、クラブハウス等を段階的に整備し、「伊勢フットボールヴィレッジ」という名称で、天然芝1面、人工芝4面及びクラブハウス1棟の施設が完成した。</p> <p>施設の整備費用14億8,000万円のうち、伊勢市が1億8,000万円を負担し、株式会社赤福が13億円を負担し、競技フィールド及びクラブハウスを整備した後に伊勢市に寄贈した。</p> <p>平成29年度の収入は約2,605万円で、主なものとして、使用料が約2,274万円、広告収入が160万円となっている。支出は約</p>

		<p>3,562 万円で，主なものとして，賃金が約 1,304 万円，業務委託料が約 727 万円，光熱水費が約 672 万円となっている。</p> <p>平成 29 年は 10 万 1,563 人が施設を利用し，その稼働率は，A ピッチが約 82%，B ピッチが約 56%，C ピッチが約 97%，D ピッチが約 95% となっている。また，伊勢市出身の J リーガーを招いたイベントが開催され，お伊勢さんマラソンのスタート地点となっている。</p> <p>伊勢市では，市内でのスポーツ大会や合宿を誘致し経済効果を高めるため，市内宿泊者数に応じた伊勢市集大会・スポーツ合宿誘致補助金交付事業を実施している。市内において開催されるスポーツ合宿や集大会などの主催者，共催者等に，延べ宿泊者数が 30 人以上であること等を条件として，宿泊延べ人数に 1,000 円を乗じた金額を 1 回 50 万円を限度として交付している。平成 29 年度の交付申請は 101 件，宿泊者数は 22,022 人，交付総額は約 2,043 万円となっている。種目別では，サッカーの交付申請が 51 件と一番多く，宿泊者数が 12,884 人，補助金額が 1,174 万円となっている。補助事業を周知するため，ホームページでの P R，市内スポーツ施設へのチラシの配架をするほか，チラシと観光案内冊子を県内外の大学等へ送付している。</p> <p>スポーツ誘客と市民利用の両立については，A・B ピッチを誘客施設，C・D・E ピッチを市民利用施設と位置づけ，両立を図っている。ただし，大会規模等により，</p>
--	--	---

		<p>全面の使用が必要な場合は柔軟に対応している。</p> <p>伊勢フットボールヴィレッジを整備した効果として、スポーツ誘客から生じる地域経済への波及効果については、建設による効果を除き、補助金申請時の宿泊者数や施設の利用者数から買い物・飲食、宿泊等をする人数を算定し、平成 29 年度はスポーツ全体で約 6 億 9,608 万円、サッカー単体で約 3 億 3,741 万円となっている。また、スポーツ誘客による利用が増加し、市内の高校と県外から訪れる団体との交流が生まれ、それを契機に市全体の競技レベルの向上につながったことが挙げられる。サッカー人口がふえ、地域のサッカーレベルが上がれば、他地域からの注目度も増し、対外試合の機会がふえ、さらなるレベルアップ、施設利用が増加する相乗効果が期待される。</p>
松阪市	松阪市クリーンセンター及び松阪新電力株式会社について	<p>松阪市は平成 17 年 1 月 1 日に嬉野町、三雲町、飯南町及び飯高町と合併した。</p> <p>合併後のごみ処理を一元化するため、平成 27 年 4 月から、松阪市クリーンセンターが稼動した。</p> <p>敷地面積は約 12,000 平方メートル、延べ床面積は約 9,200 平方メートル、構造は一部を除き鉄筋コンクリート造で、地上 7 階、地下 1 階建てとなっている。</p> <p>処理能力は、焼却施設は 2 炉で 1 日 200 トン、破砕選別施設は燃えないごみ、燃えない粗大ごみが 5 時間で 20 トン、燃える粗大ごみが 5 時間で 6 トンとなっている。</p>

		<p>処理方法については，焼却施設が全連続燃焼式ストーカ方式，破砕選別施設は高速回転式破砕機・低速回転式破砕機を採用している。</p> <p>発電能力は，蒸気タービンで 3,500 キロワット，6.6 キロボルトとなっている。</p> <p>整備費用は，建設工事費が 68 億 2,080 万円，運転維持管理費が 59 億 1,192 万円となっている。</p> <p>運営形態については，焼却施設の運転維持管理業務及び破砕選別施設の維持管理業務を委託し，破砕選別施設の運転業務，ごみ受付，計量等を直営で運営している。</p> <p>松阪新電力株式会社は，平成 29 年 11 月に，松阪市，東邦ガス，第三銀行，三重信用金庫の出資により，東海地方初の自治体出資の地域新電力会社として設立された。</p> <p>平成 29 年 7 月に公募型プロポーザルにより事業パートナーを東邦ガスに選定し，平成 30 年 3 月に経済産業大臣により小売電気事業者に登録され，松阪市公共施設等の 7 施設に電気の供給を開始した。平成 31 年 3 月 31 日現在で契約施設数 245 件，550 契約まで拡大している。</p> <p>松阪市クリーンセンターでごみを焼却する際に発生する熱により発電した電気を，東邦ガスが買い取り，東邦ガスが松阪新電力に卸し，松阪新電力が松阪市の公共施設に販売することにより，エネルギーの地産地消，エネルギーコストの地域内循環を実現している。松阪新電力の事業収益を松阪市地域好循環創造基金に寄附することによ</p>
--	--	---

		<p>り，森林保全と林業振興事業，再生可能エネルギー事業等の地域活性化の取り組みを推進し，持続可能な低炭素社会の実現に貢献している。また，松阪市の公共施設では，松阪新電力から従来よりも安い料金で電気を購入することにより経費の削減に努めている。</p> <p>年間 3,000 万円の公共施設の電気料金の削減及び 1,000 万円の事業収益を目標としている。</p>
--	--	--